

1-5					
主題	コロナ禍で考えさせられたご利用者の楽しみ				
副題	コロナ禍で失った笑顔のために				
キーワード 1	コロナ禍	キーワード 2	笑顔	研究(実践)期間	12ヶ月

法人名・事業所名	社福) 浴風会 特別養護老人ホーム南陽園
発表者(職種)	山内淳嗣(介護職員)、小林瞬(介護職員)
共同研究(実践)者	藤本典幸(フロアリーダー)、田島健司(フロアサブリーダー)、 坂主奈保子(フロアサブリーダー)

電話	03-3334-2159	FAX	03-3334-1745
----	--------------	-----	--------------

事業所紹介	社福) 浴風会は、杉並区高井戸西にある高齢者医療・福祉・介護の複合施設です。南陽園は、入所者242名・併設ショートステイ12名の計254名の特別養護老人ホームで2025年の法人創立100周年に向けて、更に職員が一丸となりより良いサービスの提供に努めています。
-------	---

《1. 研究(実践)前の状況と課題》

新型コロナウイルス感染症の拡大により今まで当たり前に行っていた、声を出して皆で歌うことや外出支援等の余暇活動ができなくなってしまった。

感染拡大の防止を優先したことにより、ご利用者の大きな楽しみとなっていた余暇活動を大幅に制限せざるを得なくなり、いつしかご利用者にとって変化のない生活となっていた。月日が経過するにつれ、今まで笑顔が多かったご利用者から笑顔が少なくなり、「何か面白いことない」と職員に尋ねられるご利用者も見られるようになった。

命を守る為の行動とはいえ楽しみを減らして良いのかと考える職員も現れ、園全体でご利用者の楽しみについてそれぞれの立場から関わっていくことにし笑顔を引き出せることを課題とした。

《2. 研究(実践)の目的ならびに仮説》

今まで当たり前に行っていた地域とのつながり、ボランティアの力を借りた余暇活動等、普通に行っていたこともコロナ禍に入り困難となり、ご利用者の日常生活の中の楽しみが制限された。コロナ禍でも楽しめることは何かないかと考え、さまざまな制限の中で取り組み、笑顔を引き出せることは何かを考え余暇活動を実施し、少しでもご利用者がコロナ禍前の笑顔で楽しく過ごすことができるよう取り組んだ。

《3. 具体的な取り組みの内容》

それぞれの部署の役割を生かし、地域連携、機能訓練、フロアとして余暇活動を行い、ご利用者に少しでもコロナ禍の窮屈さを忘れて頂けるよう関わりを持つようにした。

地域連携を通し、今までの様な大々的なボランティア活動では無く、フロア内で行わず、クラブ室を利用しフロア単位で行うよう取り組んだ。

機能訓練ではリハビリの一環としてご利用者が手作りマスク等を作成し、近所の保育園にプレゼントをする。お礼に手紙を頂いたりコロナ禍でも地域との繋がり継続に努めた。

フロアではレクリエーション係を設け、毎週実施するレクリエーション活動の予定を計画し、フロアに張り出した。また、ご利用者・職員へ周知に努め、レクリエーション係が主体となり活動を実施した。

《4. 取り組みの結果》

コロナ禍に入ってからご家族との面会も制限される中、施設職員以外のボランティアや保育園の職員、子供達と関わりを持つことにより、フロア職員の前で見せる笑顔より、さらに良い笑顔が自然と見られるご利用者も多く、その事がフロア職員の刺激にもなり、感染拡大の防止という視点と共に、日常生活の中での楽しみが重要だと再認識しフロアでも可能なことを考え実施した。

《5. 考察、まとめ》

令和5年5月8日よりコロナウイルスの分類が5類に引き下げられたことにより、ご家族との面会も緩和され、ご利用者の笑顔も増えてきたように思われる。

しかし、面会も現時点でコロナの感染状況を鑑みながら徐々に対応をしているため、今後感染拡大が発生した際、楽しみの少ない生活に戻らないよう現時点で満足することなく、さまざまな余暇活動を考え、提供していける環境を作ることが大事だと考える。

《6. 倫理的配慮に関する事項》

なお、本研究(実践)発表を行うにあたり、ご本人(ご家族)に口頭にて確認をし、本発表以外では使用しないこと、それにより不利益を被ることはないことを説明し、回答をもって同意を得たこととした。

《7. 参考文献》

- ・小池寛子(監修) お年寄りが笑顔になる楽しい壁飾り12か月

《8. 提案と発信》

コロナ禍という今まで経験したことのない状況下でも、できる楽しみを見出し、日常生活内で生きがいを提供するという意識を持つことが必要だと考える。